

(題字・佐々木英明氏)

発行日：令和8年3月31日
発行元：陽東地区まちづくり協議会
〒321-0904
宇都宮市陽東2-16-36
(陽東地域コミュニティセンター内)
TEL/FAX 028(662)6269
E-mail : yoto_com@flower.ucatv.ne.jp

ホームページ



陽東地区の人と人、心と心の「かけはし」に…

越戸川バイパスの工事現場見学会が開催されました 1/17(土)

台風や大雨の時に川が氾濫しないように地下に水を流す水路の整備が進められています



階段で地下へ



★峰4丁目 産業通り(ふれあい荘向かい側)



川の水が
こちらに
流れます

あふれた箇所

バイパス(水路)



幅6メートル、高さ3メートルの地下水路



平成26(2014)年の大雨水害(陽東1丁目)

越戸川の水害を防ぐ巨大な地下水路

産業通りの拡幅工事と合わせて越戸川バイパス整備が進められています。1月17日、一般希望者を対象とした現場見学会が行われました。ふれあい荘の反対側、峰4丁目の工事現場の入り口から階段で約4.5m降りると、厚いコンクリートで囲まれた地下空間が広がっていました。

越戸川は延長9.5kmですが、整備中のバイパスは、峰4丁目から石井町まで延長1.68kmの区間になります。

大雨で越戸川の水位が上がると、このバイパスに水が流れ込んで水量を分散する仕組みで、地下神殿として知られる首都圏外郭放水路と概ね同じ機能になります。

↑上の写真、橋の上に濁流が溢れている写真は、平成26年8月の豪雨で越戸川が陽東1丁目付近で氾濫した時のものです。越戸川は元々農業用水でも狭い川ですが、市街地の急激な都市化により多くの雨水が流れ込むようになってしまったため、豪雨の度に頻繁に溢水被害が生じています。また、鬼怒通りの4丁目付近は、豪雨の度に道路冠水で通行止めになることが多く、「冠水地帯」として有名です。

最近では、令和6年8月24日のゲリラ豪雨で、どちらの場所も道路が川のようにになりました。

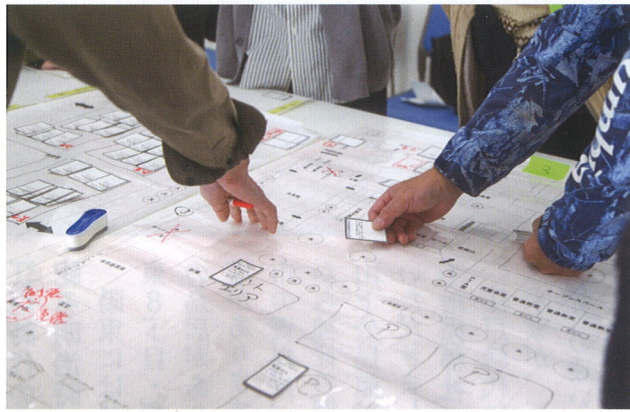
越戸川バイパスの完成は令和12年度に予定されています。今後も異常気象による大雨が予想されますので、整備事業の着実な進展を期待したいところです。

住んでよかった ずっと住みたい このまち 陽東



陽東小体育館の図面を使って災害時の避難所運営を模擬体験(会場:陽東地域コミュニティセンター)

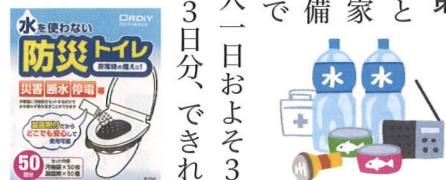
実践的な図上訓練を通じて、災害時の備えを「自分ごと」に
陽東地区自主防災会 会長 伊藤 毅
HUG(ハグ)シミュレーションは、地震などの大規模災害の発生直後、行政の支援が届かない中で避難所の運営を避難者自らが行う状況を想定し、避難所で起こる様々な出来事を図上で模擬体験する、ゲーム形式の訓練です。シミュレーションは、ペットを連れ



避難してきた方々それぞれの状況に応じて避難者(カード)を避難所の図面に振り分けていく

方、高齢者や子ども、障がいを持つ方など様々な避難者に見立てたカードを、それぞれの状況を迅速に判断しながら避難所(図面)に配置していくというやり方で進めていきます。大規模災害の発生時、陽東地区においては陽東小学校が避難所になります。陽東地区防災三部会が実施するHUGシミュレーションは、よりリアルで実践的な訓練となるよう、実際の陽東小学校の体育館や校舎、校庭の拡大した図面を使用して実施しています。今回のシミュレーションには、各自

一人ひとりの防災対策
日頃からの防災対策として特に重要なのは、家庭での食料と飲料水の備蓄、そしてトイレ対策です。食料と飲料水(一人一日およそ3リットル使用)は、最低3日分、できれば7日分を備蓄しておくようにしましょう。災害発生時、食べ物や飲み物と同じくらい、あるいはそれ以上に生存に直結するのがトイレ(排泄)の問題です。一人あたり一日5、6回はトイレに行くそうです。水がなくても清潔に使用できる簡易トイレが市販されています。可能な範囲で備蓄をお願いします。



心身ともに疲れてしまいます。大切なのは、99%以上の日常の行いや人とのつながりが、残り1%未満の災害という有事の対応力に直結するということだと私は考えます。陽東には素晴らしい「共助の精神」が根付いていると思います。地区の祭りや体育祭などのイベントで皆さんが見せる、お互いの阿吽の呼吸や迅速な行動力こそが、共助の基盤となり、災害時にも大きな力を発揮します。特別な訓練だけでなく、日頃の人のふれあいや助け合いの積み重ねが、いざという時の最大の備えになるのではないのでしょうか。

陽東の防災
「任んでよかったはず」と住みたいこのまち陽東を実現するために、皆さんと知恵を絞る合いながら、地域力のアップデートを目指していきたいと思えます。陽東のつながりという「宝」を磨き上げ、ともに強固な防災力を高めて参りましょう。

世代と時代をつなぐ、新しい「防災のかたち」
HUGシミュレーションには陽東中学校の生徒も参加しました。また、昨年5月に実施した「災害時避難訓練」では中学生ボランティアが受け付けや防災クイズラリーなども担当してくれました。こうした体験を通じて、若い世代に「陽東の絆」を感じてもらおうことは、将来の地域防災力を高めていく上で重要な「種まき」になると考えています。少子高齢化が進み、自治会の運営や各種行事の維持などが課題になっていますが、シニアの方々には知恵と経験を次世代へ伝える役割を、現役世代の方々にはその機動力を積極的に発揮していただきたいと思っています。



中学生も HUG に参加
防災クイズラリー



式典会場 3階中ホール



代表による「お礼のこぼし」



実施委員の皆さん(前列右から2番目が矢野さん)

感謝と決意

陽東中学校区実施委員 矢野 悠菜

私たちは、中学2年生の頃から、新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事や日常生活に多くの制限を受け、不安や寂しさを感じることも多々ありました。感染状況が次第に落ち着き、少しずつ以前のような生活を取り戻すことができるようになりました。そのような中で迎えた「二十歳を祝う成人のつどい」は、制限の多かった日々を乗り越えた私たちにとって特別な意味をもつ行事となりました。華やかな振袖やスーツに身を包み、久しぶりに友人と顔を合わせ、同じ時間を共有できたことに大きな喜びを感じました。また、当たり前だと思っていた日常や人とのつながりの大切さを改めて実感し、これからは大人としての自覚をもち、責任のある行動をとっていきたく感じました。この日を迎えられたのは、ご来賓の皆様をはじめ、恩師の方々、家族や周囲の支えがあったからこそだと思います。この式典に携わってくださったすべての皆様へ、心から感謝申し上げます。



コントローラーを振って画面の上のボールを投げる



画面の「ドン」「カッ」に合わせてバチで太鼓をたたく

今年度二回目となる「シニアe(イー)スポーツ体験会」がコミュニティセンターで開催されました。参加者の皆さんは、宇都宮大学の学生さんからゲーム機の手順を教わってもらいながら、一緒にゲームを楽しみ、世代を超えた交流の時間となりました。eスポーツは、耳や目、身体を同時に使うことから脳の活性化にもつながると言われており、シニア世代の生活習慣病予防や健康づくりの一環としても注目されています。今回は、太鼓を叩くリズムゲームとボウリングゲームを中心に体験してもらいました。太鼓のゲームでは、音楽に合わせて二本のバチでリズムカルに太鼓を叩き、ボウリングでは、手に持ったコントローラーを振って、実際にボールを投げる感覚で楽しんだりするなど、すぐにコツを覚え、ときおり歓声を上げながら、真剣な表情でチャレンジされていました。参加した皆さんからは「思ったより簡単で楽しい」「またやってみたい」といった声が寄せられ、大変好評でした。eスポーツは若い人がやるものと思っている方も多いと思いますが、シニアの皆さんも簡単に楽しめ、健康づくりにもなります。来年度も継続して開催予定ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

～ 権現神社の3つの石碑 (陽東8丁目) ～



江戸時代の祠と庚申塔、馬の守護神を
祀る明治時代の二つの石碑

陽東には神社はないと言われていますが、陽東8丁目・桜台3号公園の手前に、「権現神社」の鳥居があり、その場所には祠の他に3つの石碑があります。一体ここはどんな場所なのか…市の資料に、平出地区の山下自治会の方々が昔から神社の例祭を行っているとありましたので、山下公民館近くにお住まいの方に由来を教えてくださいました。

① 権現神社 (ごんげんじんじや)

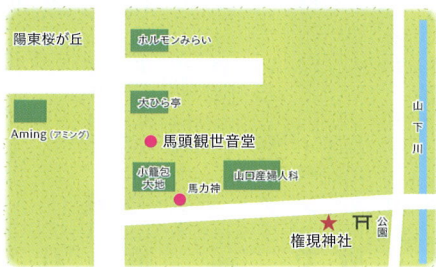
江戸時代の初めの頃、下平出村の庄屋だった鈴木家が、下平出村の坪山に住民の衆生と濟度(人々の迷いや苦しみを救う)を願って村の有志の協力により鳥居と祠を建立。祠には熊野権現神社と浅間神社の両神が合祀されている。明治に入り庄屋制度が廃止されてからは、山下地域の住民が維持管理してきたが、さくら台団地の造成により元あった山を削ることになったため、現在の場所に鳥居と祠を移設することになり、鳥居は新たに造立した(※注)。

また、その際、近隣にあった②③④の石碑もここに移設した。(※注) 鳥居には「平成18年7月建立」の文字があります。

② 庚申塔 (こうしんとう)

石碑の右側面に「慶應四年三月吉日」、左側面に「山下組講中」とあります。

庚申は干支の一つですが、江戸時代に庚申信仰が



盛んになり、60日に一度訪れる庚申の日に、延命長寿や無病息災などを願って庚申様を祀る行事が行われたそうです。慶應四年は1868年。この年の9月には江戸幕府が倒れ、明治政府が樹立されています。激動の時代に造立されたこの碑には人々のどんな願いが込められていたのでしょうか。

③ 生馬神 (いくまのかみ)

碑の正面に大きく「生馬神」、その上に「日露戦争記念」と刻まれています。日露戦争が終わった明治38年頃に造立されたと思われます。

昔、馬は農耕馬として農家を支える大切な存在でした。多くの農家に一家に1頭は馬がいたそうです。日露戦争では、下平出村からも多くの馬が軍馬として徴発され、おそらく再び故郷に帰ることはなかったと思われます。この生馬神の碑には、戦役で死んだ馬たち、共に暮らした共働いた馬という家族を悼み弔う人々の思いが込められているに違いありません。

④ 馬力神 (ばりきしん)

神社の西にある馬頭観世音の御堂近くにも同じ石碑があります。愛馬の供養のために造立されたと思われる。

